

B—78 絹の洗たくに関する研究 (第13報)
洗淨温度と洗たく堅ろう度との関係

農林省蚕試 皆川 基
学習院女子短大 齋藤 道香
○石野 尚子

1. 洗たく時における洗淨条件は染色絹布の洗たく堅ろう度におよぼす影響が大きく、特に洗淨液の温度ではその傾向が顕著に認められる。そこで本報では4種の洗剤を用い、洗淨液の温度が絹布の洗たく堅ろう度におよぼす影響について検討した。

2. J I S L 1045に準じ、MS-1号($30 \pm 2^{\circ} \text{C}$, 10分間), MS-2号 ($50 \pm 2^{\circ} \text{C}$, 10分間), MS-3号 ($70 \pm 2^{\circ} \text{C}$, 10分間) 機械法に基づいて洗淨し、洗淨乾燥後、試験片の変退色と添付白布(絹布, 綿布)の汚染の程度を変退色用または汚染用グレースケールと比較して、その堅ろう度を判定した。なおセッケンは0.5%溶液, 合成洗剤は0.2%溶液として用いた。

3. 酸性染料(含金属染料を除く), 直接染料, 塩基性染料, 分散染料および酸性媒染染料などで染色した絹布は洗淨温度が高くなるにつれて洗たく堅ろう度が著しく低下し、特に $50 \sim 70^{\circ} \text{C}$ でその傾向が顕著に認められた。また、洗淨温度が低い場合には洗剤間の洗剤成分の影響が大きく、一般にセッケンに比し合成洗剤を用いると堅ろう度が低下する傾向が認められるが、洗淨温度が高くなるにつれて、いずれも大きく低下するのでその差が少なくなる。反応性染料および建染染料で染色した絹布では一般に洗淨温度にあまり左右されず常にすぐれた洗たく堅ろう度を示すことが認められた。